



# たいしも通信

令和8年2月末、米・イスラエルによるイランへの攻撃という衝撃的なニュースが無い込んできました。今回はこれをベースに、世界情勢を極力客観的に見てみよう、という思いで防衛関連ニュース第17弾をお送りします。

## ◆今回の戦争の概要

米国とイスラエルは、2026年2月末から大規模な共同空爆作戦を敢行し、イランの軍事・政府中枢を集中的に攻撃、特に2月28日にはイランの最高指導者ハメネイ師と複数の高官が死亡、イラン政権は深刻な権力空白に直面しました。ただし、イランもイスラエル各地や中東の米軍基地にミサイル攻撃を実施。クウェートの米軍基地では死傷者も出ています。イラン革命防衛隊はホルムズ海峡を封鎖すると発表し、国際市場にも影響が出ています。また、レバノン、湾岸諸国、イスラエル本土など複数地域で攻撃と反撃が連鎖し、紛争は広域化しはじめてました。

## ◆客観的な考え方を持ったために

もちろん、戦争は良い事ではありません。しかし我々はあまりにも背景を知らなすぎます(個人的に詳しい方がいたら申し訳ありません)。例えば北朝鮮がミサイルを次々発射しても、ヨーロッパの方々はまだあまり関心がありません。日本の竹島や尖閣についてもほとんど知られていません。それは九州出身の自分が関東以北の県の位置や形が不明瞭であることとほぼ同じです。ということ、まずはイランについておさらいしてみましよう。

## ◆イランについて

日本はイランとは1926年の国交樹立以来、石油を軸とした安定した友好関係を維持しています。特に近年では中東外交で「対話」を重視、アフガニスタン復興やパレスチナ問題などで協力してき

ました。それだけに今回の戦争では米国の同盟国でありつつも、中東の安定を最優先するという難しい立場となりました。

我々は北朝鮮や中国の独裁政治はよく認識しています。またイランが直接日本に干渉してきたこともありません。しかし最高指導者の権力集中、宗教指導者が国家の最上位、選挙はあるが形骸化、体制批判には厳しく弾圧する等の理由から、実は世界的にはイランの独裁政治はかなり問題視されています。今回、空爆で民間人にかんりの犠牲者が出たのも事実ですが、イランの独裁政治による犠牲者は政府発表でも数千、世界的な報道資料によると3万6千人にのぼると言われています。もちろん、イラン国内でも空爆の評価は分かれており、体制転換は希望するが、外国からの干渉や空爆は望んでいない、という意見もあります。

## ◆我々が考えるべきこと

悲しいことに日本のテレビや新聞では極めて偏った考えしか許されません。先に述べた通り、イランの中でもこの戦争をどう評価するかは意見が分かれています。今の日本では、戦争を否定しない意見は絶対に発表してはならず、例えば東京のイラン大使館前で実施された空爆を喜ぶイラン人の集会・デモは一切報道されませんでした。戦争でさえなければ、何万人も虐殺されるのは仕方のない事なのか。ヒジャブ(イスラム教徒の女性が頭を覆う布)を拒否しただけで警察に連行され、虐待されて亡くなる女性まで出てしまうのも戦争以外なら許容される事なのか。映画ハリウッドスターの悪の権化みたいに、戦争や核兵器についても、考えるだけでなく、口にすることまで禁止されてしまったのか。我々はこの戦争を通じて自ら考える事を始めなければなりませんね。

## ▼編集後記▲▲

マスコミご自慢の「報道しない自由」は本当に恐ろしいです。例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。